

電子入札コアシステムでの JIS2004 の使用制限について

平成 20 年 1 月 31 日 更新

平成 19 年 5 月 25 日

コア開発リリース G

コアシステムサービスセンタ

平成 19 年 1 月に発売された Windows Vista にて、JIS X 0213:2004（以下「JIS2004」）に対応したフォントが標準として採用されました。また、平成 19 年 2 月に、Windows XP / Windows Server 2003 向けの JIS2004 対応フォントパッケージが、マイクロソフトより提供されています。

以上の状況において、電子入札コアシステムでは当面 JIS2004 対応フォントパッケージをインストールしないようお願いいたします。

その理由、必要となる対応及び今後の対策について、以下に説明します。

1. JIS2004 対応フォントパッケージを使用不可とする理由

JIS2004 対応フォントパッケージを、電子入札コアシステムで使用不可とする理由は、以下の 2 点です。

1.1. 電子入札コアシステムのサーバ推奨稼働環境が JIS2004 に対応していない

電子入札コアシステムのサーバ推奨稼働環境の第一世代ミドルウェア（旧称「旧ミドルウェア」）と第二世代ミドルウェア（旧称「新ミドルウェア」）は、いずれも JIS2004 に対応していません。また、電子入札コアシステム V5.0 から追加された第三世代ミドルウェアについても JIS2004 には対応していません。

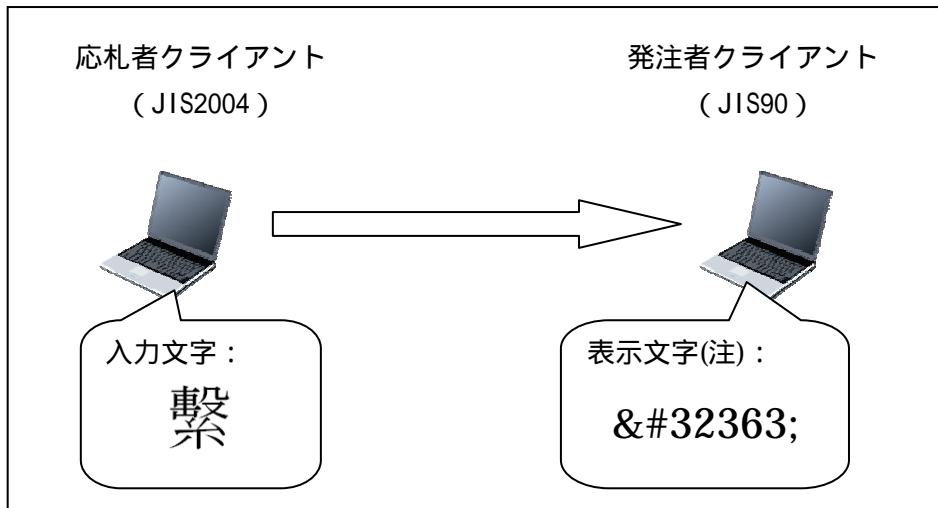
1.2. JIS2004 対応フォントを送信した場合に、表示崩れやエラーが発生する可能性がある

応札者が JIS2004 フォントパッケージをインストールし、サーバ側や発注者クライアントが JIS2004 フォントに対応していない状態で、応札者が JIS2004 対応フォントを使用した場合について、以下のような影響があることが想定されます。

(1) 電子入札コアシステムの画面表示上、以下のような状況が発生することがあります。

JIS2004 でのみ対応している文字が応札者から送信された場合に、発注者側で文字化けして表示される可能性があります。

(例)



(注) 「32363」 = 7E6B (16進数)(「繫」の Unicode 値) を 10進数で表した値

JIS2004 で対応された文字を含む文字列の場合、一覧画面での表示順序が、本来の順番と異なって表示される可能性があります。

応札者側と発注者側で、同じ文字が異なる字形で表示される可能性があります。

(2) JIS2004 では一部4バイト文字が採用されているため、該当する文字を応札者から送信した場合に、入力可能文字数以内でも入力不可となったり、サーバエラーが発生したりする可能性があります。

(3) 現時点では確認している範囲では、システムダウンが発生する事象は確認していません。

2. 電子入札コアシステムクライアント端末における処置について

上記のような理由により、電子入札コアシステムをご利用の発注者様及び応札者様においては、当面、各クライアント PC にて下記の対応を行い、JIS2004 対応フォントを使用しないよう、周知をお願いいたします。

2.1. Windows XP の場合

- (1) Windows XP クライアントに対し、下記で公開されている JIS2004 フォントパッケージをインストールしないようにしてください。

Windows XP /Server 2003 向け JIS2004 フォントパッケージ :

http://www.microsoft.com/japan/windows/products/windowsvista/jp_font/jis04/default.mspx

- (2) Windows XP クライアントに JIS2004 フォントパッケージを既にインストール済みの場合は、JIS2004 フォントパッケージのアンインストールをおこなってください。アンインストール方法については、上記 URL に掲載されている「アンインストール方法」を参照してください。

2.2. Windows 2000 の場合

Windows 2000 には JIS2004 対応フォントパッケージは提供されておりませんので、対応は不要です。

2.3. Windows Vista の場合

Windows Vista に対応したコアシステムクライアント環境を導入する場合には、下記（1）および（2）の方法によって、Windows XP や Windows 2000 のクライアント環境と同様に JIS90 フォント環境を使用するように対応してください。

- （1）Windows Vista クライアント環境に JIS90 フォントパッケージをインストールします。手順については、下記 URL を参照してください。

Windows Vista 向け JIS90 フォントパッケージ：

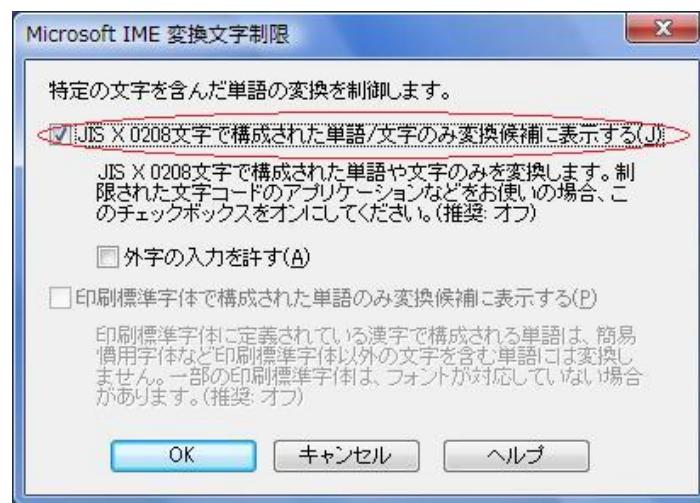
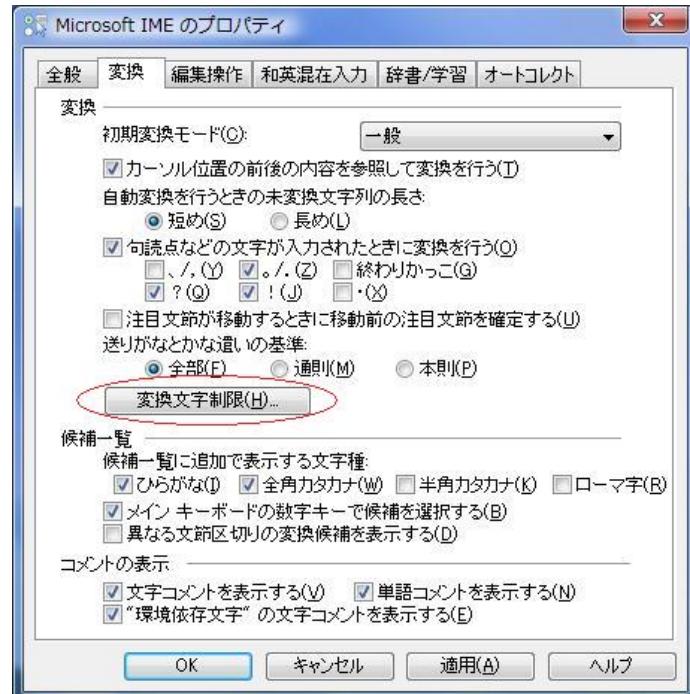
http://www.microsoft.com/japan/windows/products/windowsvista/jp_font/jis90/default.mspx

上記パッケージの適用により、対応するタイプフェース（フォント）に限り、画面上に表示される字形が JIS90 フォント環境と同等になります。対応するタイプフェース（フォント）の詳細については上記 URL を参照してください。また、このパッケージには JIS2004 にて追加された文字（JIS90 フォント環境では使用できない文字）の入力を制限する機能が含まれていないことを確認していますので、コアシステムクライアント環境として使用する場合には、必ず下記（2）の対応をあわせて実施してください。

- （2）日本語入力用 IME での変換対象を従来の「JIS90」に制限します。以下に Microsoft IME における対応方法を示します。

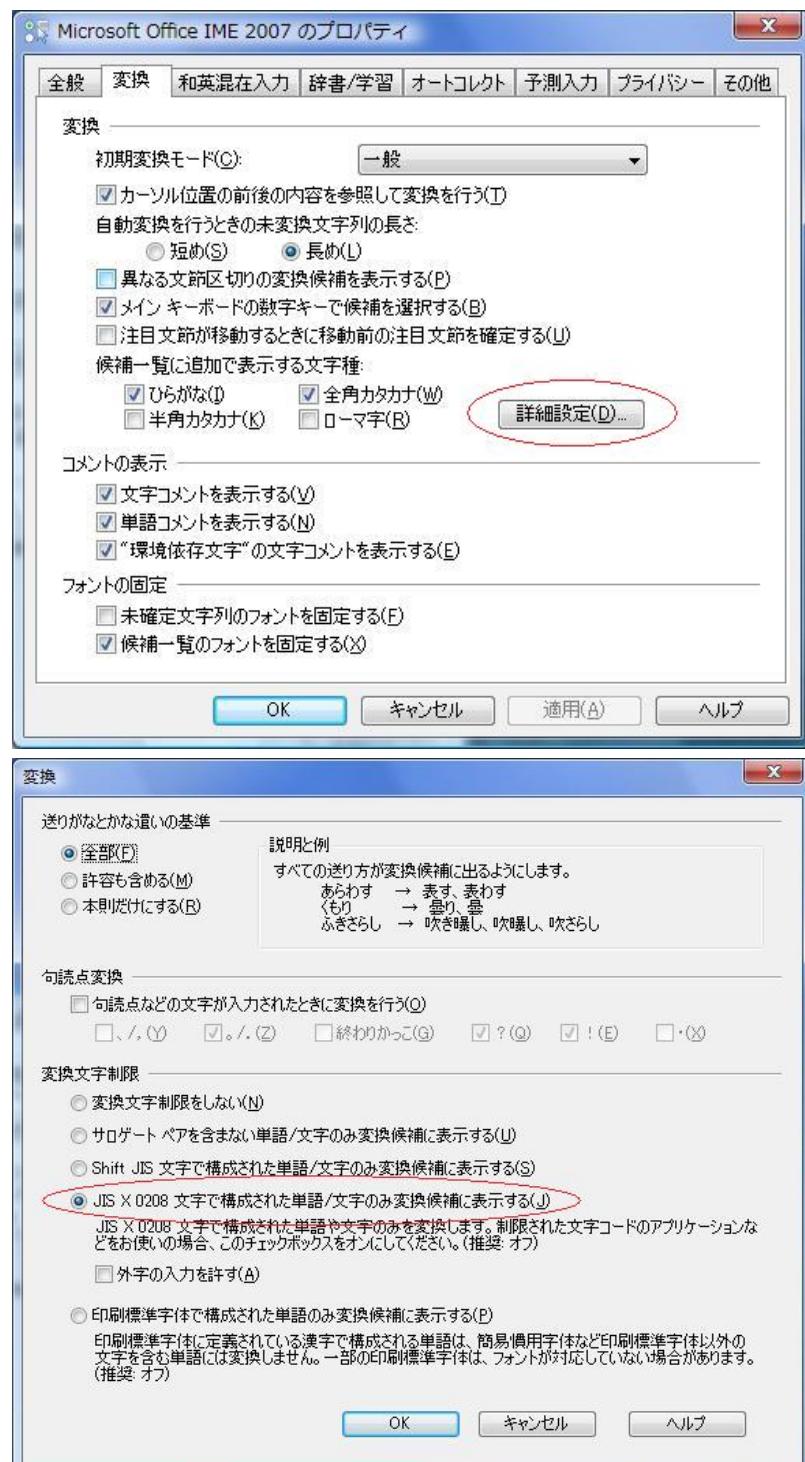
【Windows Vista 標準の IME を使用している場合】

IME プロパティを開く（1） [変換]タブ [変換文字制限]で、「JIS X 0208 文字で構成された単語/文字のみ変換候補に表示する」にチェックを入れる

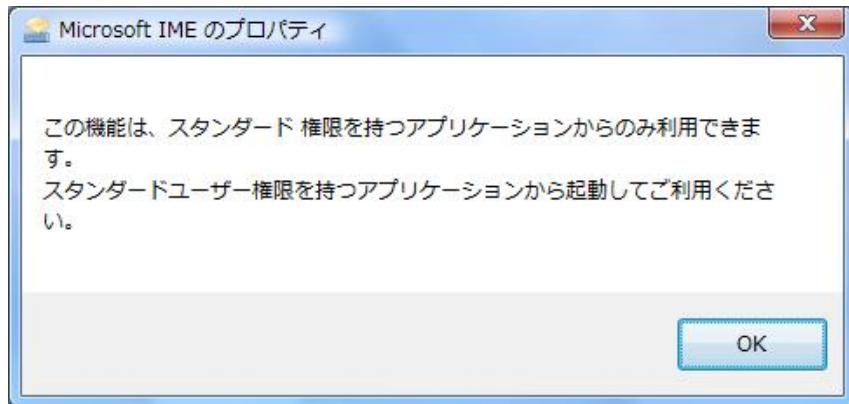


【Microsoft Office2007 付属のIMEを使用している場合】

IMEプロパティを開く（1）[変換]タブ [詳細設定]で、「JIS X 0208 文字で構成された単語/文字のみ変換候補に表示する」にチェックを入れる



- 1 IME のプロパティを開く際、ご使用の環境によって以下に示すメッセージが発生し、設定が変更出来ない場合があります。



この現象が発生した際は、Microsoft ホームページの以下の URL に記載されております情報を参考に対応を行ってください。

KB931482 Windows Vista の Internet Explorer 7 で顔文字などの登録した単語が使用できない
<http://support.microsoft.com/kb/931482/ja>

上記 Microsoft IME 以外の対応方法については確認しておりません。Windows Vista クライアント環境においてコアシステムでの文字入力操作を行う場合には、上記対応を実施した Microsoft IME (Windows Vista 標準の IME または Microsoft Office2007 付属の IME) をお使いください。

3. 今後の対応について

平成19年7月31日にリリースしました電子入札コアシステムV5.0においても、JIS2004には対応していません。WindowsではJIS2004はUnicode(バージョン3.2以上)という文字コードを使って表現されているため、V5.0リリース後の現在においてもUnicode3.2以上に対応するための影響点の検討及び確認を継続しております。今後はミドルウェア側の対応状況等を確認しながら、引き続き以下の項目に関する検討を実施してまいります。

- (1) 各ファイルの Unicode 対応
- (2) Java プログラムの Unicode 対応 (JDK5.0 以上)
- (3) ミドルウェアの JIS2004 対応版バージョンアップに関する検討
 - サーバ側 JDK5.0 以上への対応
 - WebLogic9.x 以上への対応
 - DB は Oracle 10g R2 以上
 - 各 OS における Unicode 対応
- (4) DB に関する検討
 - Unicode を使用した DB 作成
 - 旧 DB のデータの Unicode 変換とインポート
- (5) 認証機能インターフェースの確認

以上